

連載 「沖縄の有用植物資源」 第4回 — ニシヨモギ —

開発研究部 市場俊雄、照屋正映
豊川哲也、鎌田靖弘

『沖縄の有用植物資源』第4回目は、ニシヨモギを紹介したいと思います。

ニシヨモギは本州でよく見られるヨモギ (*Artemisia princeps Pamp.*) に似ていて、西南日本からインドにかけての暖帯～熱帯に広く分布し、食用や薬用に利用されています。沖縄の方言では『フーチバー』と呼ばれ、食用としてはフーチバージューシーやヤギ汁の付け合わせとして、薬用としては伝統的に解熱や腰痛などに用いられてきたそうです。

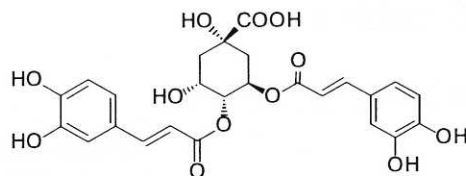
ニシヨモギ(キク科)



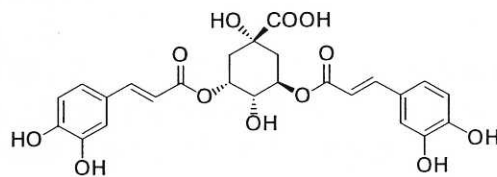
学名: *Artemisia indica willd.*

工業技術センターでは、新エネルギー・産業技術総合機構 (NEDO) の行うベンチャーコンソーシアム研究開発事業で琉球大学や農業試験場、県内企業などと共同研究を行い、その中でニシヨモギの抗酸化活性について有効成分の分析同定を行いました。その結果、ニシヨモギの抗酸化活性成分として二つのキナ酸誘導体 (3,4-Di-O-caffeoylquinic acid, 3,5-Di-O-caffeoylquinic acid) とケルセチン配糖体 (3-(β-Glucopyranosyl)-quercetin)、そしてマンデロニトリルの一配糖体Prunasinを同定しました。

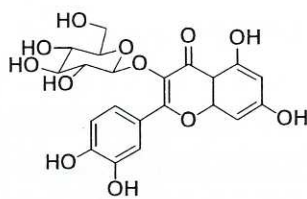
また、経常研究においては、糖尿病予防の指標である糖類分解酵素阻害活性試験においてニシヨモギエキスに高い活性が見られたことから、病体モデルマウスを用いた血糖値上昇抑制の確認試験を行いました。その結果、ニシヨモギの熱水抽出物について血糖値改善効果が認められました。



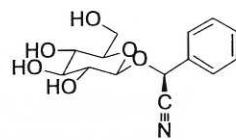
3,4-Di-O-caffeoylquinic acid



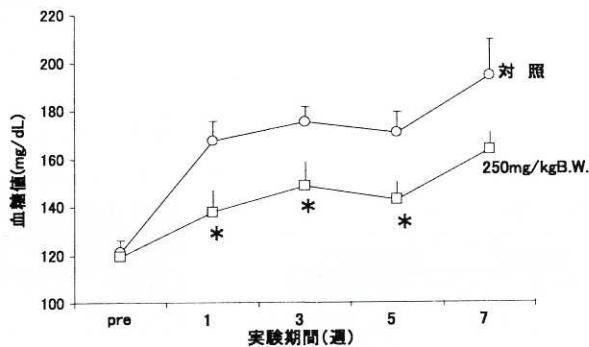
3,5-Di-O-caffeoylquinic acid



3-(β-Glucopyranosyl)-quercetin



Prunasin



ニシヨモギ熱水抽出物の強制投与がKK-Ayマウスの空腹時血糖値に及ぼす影響

値は平均値であり、エラーバーは標準誤差を示す(n=8)
期間に有意差が認められた場合は図中に示した(*p<0.05)

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか (1996) 平凡社
- ・日本の野生植物 佐竹義輔ほか (1981) 平凡社
- ・おきなわの薬草百科 大田文子、多和田真淳共著 (1985) 新星図書出版
- ・平成11年度沖縄県工業技術センター研究報告 P1-22
- ・平成13年度沖縄県工業技術センター研究報告P85-92